

地区別保護者懇談会の報告

昨年度に引き続き、今年度も10月1日と7日及び8日に、長崎市ほか4か所で地区別懇談会を開催しました。

全会場で127名の参加があり、昨年度に比べて16名の増加でした。大学側からは学長以下教員と職員を合わせて長崎会場は23名で他の会場9名から11名の構成で参加しました。

昨年度は、大学開設以来初めての実施でしたので、いただいたアンケートの意見を下に、今年度は3つの点で見直しを行いました。

その1は、開催場所を2か所から5か所に増やしました。その2は、文化講演に代えて在學生と卒業生による学生生活の経験報告を行いました。その3は、懇談会開始時間を早めて、説明・報告をきちんと行うとともに可能な限り質疑応答の時間を確保しました。

開催会場を増やしたことで、熊本県、大分県、鹿児島県ご出身の保護者の参加が大きく増えました。

(開催会場別)

長崎市	福岡市	熊本市	大分市	鹿児島市
45	22	14	25	21

(出身県別)

長崎県	福岡県	佐賀県	熊本県	大分県
41	14	8	14	26
宮崎県	鹿児島県	山口県		
2	19	3		

(学年別)

短大1年	短大2年	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年
14	10	41	21	21	20

懇談会は、大学側から、学生生活、キャリア支援、海外留学の3点を中心に報告し、質疑応答の後、昼食・

懇談を行い、午後から在學生・卒業生による経験報告と教育個別相談(希望者)という進行次第で行いました。

懇談会の運営につきましては、ご出席いただいた保護者の皆様方のご協力もいただいて多くの方の評価をいただきました。特に、学生の経験報告は、同県出身者という身近な学生であったこと、自らの経験を丁寧に真剣に報告したことが参加者に強い印象を与え、参加者のほとんどの方から賛辞をいただきました。

大学からの、昨年に引き続き「保護者会(仮称)設立」に関するご提案をさせていただきました。

保護者の皆様からのアンケートの結果は別表のとおりとなっております。ご意見の中には、過保護は必要ない等の立場から厳しい意見も寄せられておりますが、大学との連携、情報交換の重要性や大学のご支援をとの温かいご意見もたくさんいただいております。これらのご意見を受けまして、来年度発足に向けてのご相談をご提案させていただきたいと思っております。

	必要だと思う	必要だとは思わない	態度不明	NA
昨(平成17)年度	60	22	0	6
今(平成18)年度	78	4	3	15

全会場とも、保護者の皆様のご協力をいただきながら、無事、予定したスケジュールで終わることができましたことを感謝申し上げます。

99名の参加者の皆様方から、貴重なアンケートをいただきました。各項目にわたりまして、延べ134件の貴重なご意見をいただきました。長崎外国語大学・長崎外国語短期大学の教職員一同、ご意見にお応えできるよう、教育・研究、大学運営に努めてまいります。

拙文ではありますが、地区別懇談会の御礼と報告に代えさせていただきます。(文責:事務局長 土井信義)

今年で56回目を迎えた外語祭が、十一月三日(金)四日(土)の二日間にわたって十数年ぶりに芸能人を招いての開催となった。やって来たのはお笑い芸人「江戸むらさき」ら三組。学生達には結構受けただろう。他にも恒例のフラメンコ部による踊り、留学生によるヨサコイ踊り。模擬店を散策すれば所々に各国の料理を

『SHAKE HANDS』 第56回外語祭

おいしそうに類張る微笑ましい姿が目立つ。近隣の住民にも好評のようである。OB、OGも集まってきたようだ。文化祭栄えるところに学園の繁栄あり。今後の外語祭に期待したい。



『あの人は今』 ~同窓生、教員の顔

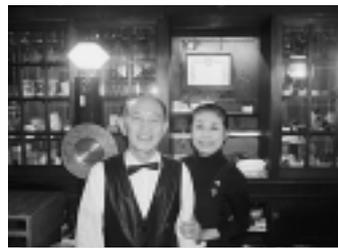
鹿児島市内の天文館に、シャレたワインバーがある。その名も「ワインケラー池畑」本学池田学長一押しの店である。

このマスターは、日本ソムリエ協会九州支部監事池畑文二さん(外語短大第16期卒)。奥様の隆子さん(旧姓森永)とは、同じ泉町キャンパスで青春を謳歌された同窓生である。

ここでは、ワイン好きにはたまらない美味しいワインを提供してくれる。隆子さんの手料理がまた、ほほがとろけ落ちそうになる程絶品である。

鹿児島へお寄りの際には、是非足を運んでいただきたい。

鹿児島市東千石9-7
(イワサキホテル裏通り 若松ビル地下)
TEL 099 226 4334



二〇〇六年度春学期行事紹介

スポーツ大会の実施について



保護者の皆様、同窓会の皆様、御健勝のこととお慶び申し上げます。学生支援室から「スポーツ大会」について御報告いたします。

長崎外国語大学と長崎外国語短期大学では、例年五月の中旬頃、新入生の歓迎と学生同士の交流を深めるため、合同でスポーツ大会を実施しています。今年は五月十六日(火)に、全学を一日中休講にして開催しました。

男子の部はフットサル、女子の部はバレーボールと二種目のみでしたが、男子は十七チーム、女子は十七チームに教職員二チームを加え十九チームの参加がありました。

学生のチームは、クラス単位或いは仲間、気の合う者同士で編成されており、和気藹々の中にも勝ちに行く姿勢が随所に見られました。成績は、男子の部が優勝鶏裸体、二位+MASA、三位ヨガ王国、女子の部が優勝我武者羅排球部、二位フレンジヤイ、三位ゴリだよでした。賞品として学友会から、夫々にクオカードが贈られました。

教職員チームは、大会を盛り上げるべく、上は六十歳を超

えた人から下は三十歳台までの男女混合で即席チームを結成して試合に臨みました。初めのうちは何とか勝ち進んでいきましたが、やはり年には勝てず、勝ち進むにつれて日頃の運動不足がたたり、女子学生とはいえ若さと体力の差(もつとも技術の差もありましたが)で、惨敗の憂き目に逢いました。しかし、学生さん達と一緒に出来た満足感と心地よい疲労感を味わうことが出来、楽しい一日でした。

当日は、あいにくの雨模様でグラウンドでの実施予定の男子の部が、体育館での実施を余儀なくされ、女子の部と半コートずつの使用となり、大会の進行に多少の影響がありました。大きな怪我やトラブルもなく無事終了することが出来ましたことは、サポートする立場の学生支援室としても安堵いたしました。

参加学生数は約二五〇名で、全学生数の三分の一にあたります。例年これ位ですが、すこし物足りなさを感じます。今後学友会とも話し合い、多くの学生が参加できるように種目を増やしたいと思っております。

六十周年記念事業

長崎外国語大学と長崎外国語短期大学を擁する「長崎学院」は、終戦の年である一九四五年に創設されま

した。原爆の傷跡も生々しい中で、キリスト教精神に基づいて、世界平和と人類の共存共栄のためには、外国語を理解し、異なる国の人々と真に対話できる若者を育てるのが急務であるという信念によるものです。それから六十年にわたり外国語教育を通じて社会に貢献できる人材を育成してきました。前年度よりこの六十年の歴史を記念したさまざまな行事を行って参りました。ここでは、現在進行中のものも含めご報告いたします。

長崎外国語大学と長崎外国語短期大学を擁する「長崎学院」は、終戦の年である一九四五年に創設されま

月です。編集作業の進捗状況は随時報告致します。

「60年のあゆみ」

(パンフレット)発行

二〇〇五年十二月に六十年記念事業として「60年のあゆみ」と題したパンフレットを作成し関係各位に配布いたしました。



後本学学生食堂にて記念昼食会を開催しました。

記念品作成・配布

記念品としてキリスト教と縁があり本学女子寮の名前でもある「葡萄の房」をあしらった金色の栴を作成し、式典参加者や在學生に配布しました。



寄贈図書

教職員より六十周年の寄附金を募り、図書館に図書を寄贈しました。同窓会からも同様の寄贈があり、記念寄贈図書として九百余冊が本学図書館の蔵書に加わりました。

今後とも本学の発展のため、関係者の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記念誌編纂開始
校内に六十周年記念誌編纂室を設け、編集委員会および委員を組織し、記念誌の編纂に着手しています。発行予定は二〇〇七年十一



アメリカへの留学

英語アメリカ文化コース
大学三年 陣川のぞみ

留学期間…

二〇〇五年九月～
二〇〇六年八月

留学先大学…
ニューヨーク州立大学
ニューパルツ校

アメリカに留学することは、私が高校生ときにアメリカでホームステイを体験した時からの夢でした。アメリカに行く前は、日本人として日本の文化について学び、自分がアメリカで本当に何をしたいのかをよく考えました。また、NYから来ている留学生にNYについて聞き、少しでも自分の留学をスムーズに進めるよう努力しました。

今、十ヶ月間の留学生生活を振り返ると、私は本当に人との出会いに恵まれていました。私のルームメイトであり親友であるJenは、私に英語だけでなく、様々なことを教えてくれました。彼女と一緒に

毎日ジムへ行き、夕食を食べ、一緒に勉強し、遊びに行きました。

イースターには、彼女の家に滞在し、彼女の家族とも交流を深めました。また、私の家族がNYへ遊びに来た際に、Jenに私の家族を紹介できたことは、とてもいい思い出です。Jen無しには、私の留学生生活を語ることはできません。他にも、私は数えきれないほどの友人に出会い、彼らと様々なことについて話し、世界の文化に触れることができました。留学するということに、ただ英語を勉強しに行くだけでなくもつたいたいと思います。その国に行き、実際に住んでみたらこそ、分かることが本当に多くあります。私は十ヶ月間、アメリカという国に本気で住み、本気で勉強しました。帰りの飛行機の中で私はもう何も悔いはないと思います。こんなに充実し、一つのことをやり遂げたという達成感を初めて感じたのです。

さらに私は、アメリカに滞在中に多くの人に助けられました。外大には毎年、多



くの留学生がやってきます。彼らが困っていたり、不安になつていたりしたら、自ら進んで助けてあげようと思えます。

アメリカを肌で感じだした十ヶ月。私の人生に希望と自信を与えてくれました。

留学を終えて、今

ドイツ語ドイツ文化コース
大学三年 改發 加奈

留学期間…

二〇〇五年九月～
二〇〇六年八月

留学先大学…
ハイネリヒ・ハイネ大学

「ドイツ語を学び始めたからには、ドイツに行きたい」これが私の留学志望動機でした。私のドイツへの憧れは強く、一直線だったのです。そして帰国した現在、私は達成感とともに自分自身の変化を感じています。

ドイツでの一年は、良くも悪くも内容の濃いものでした。毎朝語学学校に通い、午後は友人たちと連れ立って街へ。夜になって寮に帰ってくる。キッチンで様々な国から来たいた学生たちとパーティーをしました。週末は休む間もなく旅行に行ったり、映画に行ったり。新しくできた友人



とドイツ語で会話をしながら毎日楽しく過ごした。かたがあたりませんでした。

遊んでばかりいる様な生活ですが、同じくらいに苦しい思いもしました。言葉の壁にぶつかって引きこもったこと。価値観や性質があまりに違って、人と話すことが怖くなつたこと、そして何より長く辛い思いをしたのはビザの問題でした。始めは書類の不備で短期間のビザしか発行してもらえず、その後何度も外人局に足を運びました。結局うまくいかず、八月までのビザを受け取ったのは五月になってからでした。その後、私を担当していた女性職員が以前から頻繁にアジア人学生とトラブルを起こしていると感じたのです。

自分が「外国人」として扱われることで初めて知った気持ちや経験、そして後悔。それらは私を一步大人へと近づけてくれたと思います。

留学をしなれば得られなかった変化を本当に嬉しく思い、傍にいてくれた友人や支えてくれた家族に心から感謝しています。

聖書雑感(一)

小西 哲郎

「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネによる福音書一四章六節)

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学の校章は、三つのVを重ねたデザインになっています。これはVIA VERITAS(道・真理・命)の頭文字で、上記のイエス・キリストの言葉から採られたものです。道・真理、そして命なるイエス・キリストを象徴するこの校章は、学院創立二〇周年を記念して一九六五年一月に制定されたもので、本学がキリスト教精神に立脚していることを表しています。

ところでこのイエスの言葉は、弟子のトマスが質問「主よ、どこへ行かれるのか、わたしは分りません。」(五節)を受けて言われたもので、すから、「わたしは…」ではなく、「わたしは(その)道であり、…」と訳すべきところでしょう。「わたしは…」だと、その文が文脈から切り離されてしまいます。(ちなみに、ギリシャ語原文の「道・真理・命」にはそれぞれ定冠詞がついています。)"は"と"が"、一文字の違いですが、そのニュアンスに敏感でありたいものです。

(学院宗教主任)

ながさき県民大学主催講座

「ながさき県民大学」と連携した、十回シリーズの講座を平成十八年度の秋学期に本学にて開講しています。テーマを『今日の問題の諸相 市民とともに考える』とし、歴史的・国際的な観点からのアプローチと、「長崎では…」の視点を加えて現在のな問題を、県民の皆さんとともに考察する講座としました。十二月一日現在では、既に九回が滞りなく終了しています。ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。

講師・講座テーマ	一 戸口民也本学教授 『ヨーロッパからの視点』
	二 山川欣也本学教授 『アメリカ社会の姿』
	三 史跡料亭花月営業部 加藤貴行氏 『龍馬が見た長崎』
	四 堺雅志本学教授 『言葉遣いは乱れているか』
	五 仲矢信介本学助教授 『言語史から見たら抜きことば』
	六 松本充豊本学助教授 『歴史的環境』と開発を 考える』

七 長崎歴史文化研究所長 原田博二氏 『長崎の今と昔』
八 坪井明典本学教授 『フリーター・ニート増の背景』
九 新井信之本学教授 『憲法改正論の問題点について』
十 加島巧本学教授 『小学校での英語教育を 考える』

長崎市寄附講座

二〇〇六年度秋学期、長崎市寄附講座(本学学生対象)として全十四回の講義が行われています。『長崎を舞台にした国際交流 過去・現在・未来』と題し多くの本学内外から多彩な講師を迎えた、ユニークな授業を実施しています。各講師の先生方には、表題どおり長崎と国際交流の過去・現在・未来を主題に幅広い視点からの講義を依頼し講演いただきました。これらの国際交流を担う受講生は、本講座でまた多面的な視野を備え、未来の社会に貢献してくれるものと期待されます。

西フランスカトリック大学との国際交流二十周年記念行事

フランス・アンジエ市にある西フランスカトリック大学と長崎外国語大学は交流二十周年を祝い、二〇〇六(平成



十八)年九月五日アンジエで記念式典を行った。式典は西フランスカトリック大学のルソー学長の挨拶で始まり、本学池田学長もフランス語ですばらしい挨拶をされ、参加者の賞賛をあびた。その後、二十年の交流を記念する調印式記念植樹とカトリック大学学長主催の昼食会が和やかな雰囲気の中でとり行われた。短大時代から数え、アンジエに短期、長期で留学した学生の

春秋の受勲・褒章

瑞寶中級賞 光田 明正
長崎外大・短大前学長
(十一月九日秋の園遊会に出席)
「永年教育事業に携わり私立学校教育の振興に貢献した。」
藍綬褒章 古賀 貞夫
学校法人長崎学院監事
「中立で公正な選挙の啓発と普及活動に尽力した。」
旭日双光賞
橋口平八郎さん(短大一部二回生)
(元県バレーボール協会会長)
「多年にわたり選手と指導者の育成、強化に尽力した。」
山口 寛さん(短大三部三回生)
(元長崎市議)
「多年にわたり地方自治の推進と発展に貢献した。」
*受章おめでとうございます。

編集後記

先日、前職場であるT大学に何気なく行ってみた。もうかれこれ十五年の月日が流れているのだが、行ってみて驚いた。十五年の間、大きく変貌を遂げていたのだ。校舎は倍に増え、大学院も設置。最新のデジタル伝言掲示板、証明書自動発行機、学生がついに寄りたくなるようなハイセンスな国際センター。全世界の国旗が所狭しと聳え立つ図書館。シャレた正門。どれをとっても大きく発展していた。埼



調印式の様子

数は四〇〇人以上になる。四大発足後は長期留学する学生数が増え、今後ますますの交流発展が期待される。

玉のどちらかという田舎にあるT大であるが、その校舎の空間だけは別世界であった。本学も負けてはいられない。施設が全てではないが、学生が通いたくなるような校舎、及び学生サービス。それに裏づけされる充実した教育。ソフト面とハード面から両面で攻めていくことは非常に大切なポイントであるとあらためて実感した。久しぶりの広報誌。その創刊号発刊にあたりご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。(中村淳)